

**各務原市総合計画策定にかかる
各種団体・企業へのヒアリング調査結果報告書**

令和6年4月
各務原市

目次

I 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象	1
3 調査期間	1
4 調査方法	1
5 調査項目	1
II 調査結果	2
1. 団体等の概要	2
2. ヒアリング結果の概要	3
(1) 市民協働	3
(2) 出産・子育て・教育	4
(3) 文化・スポーツ・生涯学習	8
(4) 自然・環境	11
(5) 健康・医療・福祉	12
(6) 防災・防犯	14
(7) 都市基盤整備	16
(8) 産業・交流	18
(9) 行財政	22
資料：ヒアリング記録	23
01.市民協働—岐阜友の会	23
02.出産・子育て・教育—子育てサークル（しゃんしゃん、はむえつぐ）	24
02.出産・子育て・教育—こもれび食堂（社会福祉法人小松河福祉会）	26
02.出産・子育て・教育—稲羽中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）	28
03.文化・スポーツ・生涯学習—公益財団法人かかみがはら未来文化財団	30
03.文化・スポーツ・生涯学習—各務原市スポーツ少年団	32
03.文化・スポーツ・生涯学習—中央ライフデザインセンタークラブサークル発表会実行委員会	33
04.自然・環境—各務原市生活学校	34
05.健康・医療・福祉—グリーンベンチ男組	35
05.健康・医療・福祉—朝日町寿会シニアクラブ	36
05.健康・医療・福祉—ラルジュ那加（株式会社ラポール）	37
06.防災・防犯—各務原防災推進ネットワーク	38
06.防災・防犯—小網町長寿会グリーンキャップ	39
07.都市基盤整備—耀く大野町まちづくり委員会	40
07.都市基盤整備—岐阜乗合自動車株式会社	41
08.産業・交流—各務原市農業委員会	42
08.産業・交流—各務原市観光協会	44
08.産業・交流—空宙博ボランティア	45
09.行財政—株式会社リトルクリエイティブセンター	47

I 調査概要

1 調査の目的

各務原市において活動する各種団体や企業（以下、「団体等」）から、現状や課題、今後のまちづくりに対する意見などをお聴きし、次期総合計画策定に活用するために実施しました。

2 調査対象

総合計画の基本目標の各分野で活動する合計 19 の企業、団体を抽出しました。

3 調査期間

令和 6 年 1 月～ 2 月

4 調査方法

直接面談方式

5 調査項目

1. 関連分野において感じる課題を教えてください。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。
8. その他

Ⅱ 調査結果

1. 団体等の概要

分野	詳細分野	ヒアリング先
市民協働	市民協働	岐阜友の会
出産 子育て 教育	出産・子育て	子育てサークル（しゃんしゃん・はむえっぐ）
	子育て（要支援）	こもれび食堂（社会福祉法人小松河福祉会）
	教育	稲羽中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）
文化 スポーツ 生涯学習	文化	公益財団法人かかみがはら未来文化財団
	スポーツ	各務原市スポーツ少年団
	生涯学習	中央ライフクラブサークル発表会実行委員会
自然・環境	自然・環境	各務原市生活学校
健康 医療 福祉	健康・高齢者福祉	グリーンベンチ男組
	健康・高齢者福祉	朝日町寿会シニアクラブ
	障がい児福祉	ラルジュ那加（株式会社ラポール）
防災 防犯	防災	各務原防災推進ネットワーク
	防犯	小網町長寿会グリーンキャップ
都市基盤整備	都市基盤整備	耀く大野町まちづくり委員会
	公共交通	岐阜乗合自動車株式会社
産業・交流	農業	各務原市農業委員会
	観光	各務原市観光協会
	観光	空宙博ボランティア
行財政	シティプロモーション	株式会社リトルクリエイティブセンター

2. ヒアリング結果の概要

(1) 市民協働

区分	主な意見
市民協働 岐阜友の会	＜関連分野において感じる課題＞ ● 核家族やワンオペ育児、孤独な高齢者が増えている。コロナを契機に自治会活動も減少し、地域のつながりが弱くなっている。 ● ワンオペ育児を支える人、支える場所がない。ただでさえ不安を抱えている人に多くの情報を与えても何が大切か分からず、より不安になるだけである。 ● 子ども館は子ども向け施設であり、父母向けの、意見を聞いてもらいホッとできるような施設がない。こうした場の設置を目的として市内で活動しようすると、会場費がかかることがネックになっている。 ● 昔のように、地域の子どもの地域全体で育てるという意識が希薄化している。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 講座で希望者を集めるのではなく、気軽に立ち寄り、話することができる場所が必要。そこで不安を取り除くための寄り添い話ができるとよい。 ● マッチング事業の小規模版として分野別マッチング事業を開催して欲しい。子育て分野、環境分野など、同分野のつながりを強化させたい。 ● 子育て分野の情報ネットワーク体制を構築して欲しい。複数団体が集まることで、1団体では実現できないことを実現させたい。 ● 関市では「岐阜友の家」という施設があるが、各務原市にもあるとよい。 ● 市民活動団体のチラシを置くブースを設置して欲しい。 ● 地域で管理するふれあいセンターなど、シニア世代の拠点となる場所に気軽に立ち寄れるように開放して欲しい。 ＜市や他団体との協働への希望、アイデア＞ ● 時間に余裕のある人や、意欲的に活動できる高齢者などと、手助けが必要な人や勉強を見て欲しい小中学生などをつなげる仕組みがあるとよい。 ● 子ども館と連携したい。子どもを遊ばせている間に、母親の相談相手となって不安を取り除く取り組みをしたい。 ● 緑苑「ふらっと」や八木山「ささえあいの家」など、積極的に活動している社会福祉協議会と連携したい。

(2) 出産・子育て・教育

区分	主な意見
出産・子育て 子育てサークル (しゃんしゃん、はむえっぐ)	＜関連分野において感じる課題＞ ● 保育士の労働環境が整っていると、子どもやその親にも還元される。現場の労働環境に重きを置いて施策を実施することや、保育士の給与面を含めた待遇の向上が必要。 ● 保育士免許を持っている母親も周囲にいるが、愛知県など条件のより良い所を働き場所として選択する方がいる。子ども館でも、夕方など人手が不足していると聞いた。市内の保育に関わる方の待遇がよければ、子どもに還元されるものも増える。 ● 人気の保育園、体験ができる保育園などがあるが、そこに子どもを預けられなければ働くことを諦める実情がある。保育園が合わず、退職退園の両方を選択せざるを得ない人もいる。 ● 具体的な事例として、子どもが髪の毛にご飯粒を付けたままの事があるなど、預けた保育園の衛生環境が不安になり退園し、預け先がなく仕事も退職したケースがある。保育士が不足する事で一人ひとりの子どもに目が生き届かないことや、衛生環境の充実に手が回らない実情があると思う。 ● 待機児童はないが、兄弟で別々の園に預けなければならない、希望の園に入れないなどの声を聞く。 ● 転勤のある家庭などは地元の友人や家族とも離れるため、身近に頼れる人がおらず不安が大きい。(マタニティ広場、子ども館などは同じ年の子を持つ他の親と知り合うことができ、県外から来た夫婦などにとっては不安を共有できる仲間を持てるため、とてもありがたい。) ● ペーパードライバーのため、子ども館へは、20分かけて徒歩で通っていた。子育てにおいても車移動前提のまちだと感じている。 ● ふれあいバスは1乗車100円で安い、もっと料金を上げて良いので便利になってほしい。鵜沼側は便数が減少し、チョイソコは前日に予約が必要であるため、高齢者の通院などには良いと思うが、子どもとの利用となると体調や機嫌に左右されるので利用しづらい。(柔軟に対応してもらえるのかもしれないが、案内の記載を読んで利用できないと諦めている) ● 病児・病後児保育(こあら)の使い方がわかりづらく、うまく利用できていない。 ● 父親は仕事が休めず、母親が体調不良のときがある。授乳中だと強い薬は服用できないため大変。そうした時に頼れる先があるとありがたい。 ● 小学校において、多文化共生が実感できない。 ● スマート連絡帳が使いづらい。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 学童での給食や宅配弁当。(長期休み期間中の弁当を理由に幼稚園から保育園に変更する人もおり、それほど親にとって弁当作りは負担になる。) ● 学用品や自転車の購入助成。 ● ベビーベッドやチャイルドシートの貸出。(市が実施することで安心して利用できる) ● 習い事の助成。また、習い事の送迎や保育園での教室実施(スイミングなど民間企業や市が行っているスポーツ教室、知育学習の補助)があると嬉しい。(幼稚園での経験の差を心配する親がいることや、15～17時の保育士の負担軽減にも繋がる)

(2) 出産・子育て・教育

区分	主な意見
	● 総合福祉会館の一部が新型コロナウイルスワクチンの関係で使えなくなっており、子育てサークルで利用できるように貸し出しを再開してほしい。 ● 産後の事業はとても充実しており驚いたが、インフルエンザ予防接種の助成がなくなったことや、産前のつわりへの補助がなく病院での点滴などに費用がかかったことから、そうした産前のケアについても行政の助けがほしい。 ● おむつの補助。 ● 自治会との関わりが薄いため、転入時など、自治会長名や連絡先などについて、市から事前に案内があると安心。市外からの転入があった自治会にとってもメリットがあるのでは。子ども館の掲示板から市の様々な情報を入手しているので、そこに案内があるとよい。 ● 子どもの有無に関わらない、あらゆる家庭に対する人口を流出させない取り組み。 ＜市や他団体との協働への希望、アイデア＞ ● 地域でのつながりを生かしたミニ学童運営の形として、実際のお寺で寺子屋を行う。 ● 学校との連携がさらにできれば、不登校を減らすことにつながると思う。
子育て（要支援） こもれび食堂（社会福祉法人小松河福祉会）	＜関連分野において感じる課題＞ ● 子ども食堂の活動においては、法人・団体ともに、お金の問題よりも、同じ志をもった人が集まれるかどうか活動が継続していくうえで重要だと感じる。 ● 社会福祉法人でも、高齢者施設の職員にとっては、利用者第一であり、子どものための活動について理解を得て、同じ熱量で取り組む仲間を見つけていくことが難しい。 ● 「働くお母さんの会」（全国のお母さんで構成）に参加する中で、親自身が病気のときに、子どもの預け先がないことや、病児・病後児保育が利用しづらいとの声を聞く。 ● 保育所の運営では、未就園児とその親が通う場（クラブ）を設けている。子どもに関する些細なことでも、不安を抱え、悩んでいるお母さんが多い。（そうした親が気軽に集える場所づくりができれば良い） ● SNS 等の情報に振り回され、不安を一人で抱えてしまっているケースがある。 ● 子ども会の活動は、親への負担から継続が難しい地域がある。川島地区では子ども会がなくなってしまった。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 子ども会での活動で大変なことは、イベントの企画・運営や参加している子どもへの注意。体操教室や工作体験など、イベントを実施できる団体や企業をリスト化し、市から情報提供があると良い。子ども会で集まる際には、イベントの進行等を団体や企業に委託できれば、担い手の負担が大幅に軽減されると思う。
教育 稲羽中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）	＜関連分野において感じる課題＞ ● 地域連携（読み聞かせボランティア）の中でも、子どもたちと接する中で、小学生の社会性の乏しさ（静かに話がきけない子が多い、じゃんけんルールがわかっていない）など、コロナの影響を心配する声がある。人間関係を学ぶ場、遊びの場などを大切にしていける必要がある。

(2) 出産・子育て・教育

区分	主な意見
	● コロナの影響に限らず、不登校の傾向が6年生になって突然始まるケースや、親離れできず、集団になじめない1年生、個別支援が必要な子の数は全国的にも市内でも右肩上がりとなっている。 ● 子どもたちのための活動（資源回収による学校運営費用の確保など）の重要性や地域の実情に合わせた方法変更について、地域が理解したうえで、支えてもらえるような工夫が必要。（自治会を通しての丁寧な説明など） ● 共働きの親の余裕がない。自身の子どもについての問題に向き合えず、学校に問題の責任を問うという関連性もみられるため、親が余裕を持てるように働きかけていくことが必要。 ● 地域の方と児童とのつながりだけでなく、保護者にも「地域の方に支えられている」ことが伝わる工夫が必要。 ● PTAに入らない方も多くなっている。今は問題が顕在化していないが、このまま増加すると問題が発生するのではないか。 ● 小学校では登下校により地域や親同士のつながりがあるが、中学校ではそうしたつながりが薄れるため、不安なことを相談できる相手がおらず、孤立しやすい。 ● コロナの影響もあり、親同士のつながり、情報共有が薄れている。（そうした意味で地域の運動会などイベントの再開は大切。） ● 怒るだけで、叱ることができない親も多い。（地域での活動を通して、子ども本人が悪いと気づかずに行ってしまっているいたずらなど、いけないことをきちんと教えてくれる地域の方の存在は大切。） ● 親が学校運営に求めるものが多くなっており、コミュニティ・スクールを通して見ていると、学校の負担が大きすぎると感じる。教員確保の観点からも、部活動の地域移行など、教員の負担軽減は重要。 <u><市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること></u> ● 教育関係の各種取り組みについて、市民にわかりやすく説明すべき。 ● 教育にとって、自治会や子ども会とのつながりが重要だが、継続して取り組んでいくためには輪番制だと実現が難しい。市には、自治会加入や親同士のつながりによるメリットを市民に伝えていくことや、リーダーシップを期待したい。 ● 地域とのつながり、親同士のつながりの希薄化・無関心化が見られる一方で、授業参観は参加が多くなっている（自分の子への関心は高い）ため、そうした機会を活用し、地域や親同士のつながりの重要性やメリットを伝えられないか。 ● 連携できそうな保健師、保育士の情報が運営協議会を通して校長に伝えられる場面があった。地域の方からの情報共有も大切だが、本来は市からこうした情報提供があるとうい。 ● 運動会は3世代が集まる大切な場だが、コロナを経てなくなっている。現状に合わせたイベントのアイデアや、他の地域の活動事例の共有などを行い、盛り上げていく支援を期待したい。 ● イベントに限らず、地域活動を続けていくためのノウハウを蓄積・共有し、支援してもらうことで、地域の活動が継続できるよう取り組んでほしい。

(2) 出産・子育て・教育

区分	主な意見
	● 学校給食の無料化。 ● 水の問題の安心に関する周知、血液検査の実施。

(3) 文化・スポーツ・生涯学習

区分	主な意見
文化 公益財団法人かかみがはら未来文化財団	＜関連分野において感じる課題＞ ● 10代、20代といった若い世代の文化芸術への関心が低い。コンサートも地元でなく名古屋や東京に行ってしまう。地元で見る慣習がない。 ● 障がい者の方が、快適に文化施設に訪れることができるような施設のバリアフリー化。 ● 公共交通のアクセス、臨時バスなどの整備。 ● 広い世代、文化芸術に興味のある高齢者や子育て世代への周知、集客。 ● 文化・芸術という言葉が固い。かしこまった、手の届かない印象を受けてしまう。 ● 障がい者向けのイベント開催が少ない。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 学校の授業の一環でアーティストの演奏を聴くことに加え、ホールの見学をするなど、音楽に触れるだけでなく裏方にも目を向けることで、子どもたちがあらゆる視点から物事を見られるのではないかな。 ● 障がい者の利便性の視点から、難聴者向けのヒアリングループの導入など、障がいに応じた設備を導入すると良い。障がい者への理解を深めていくことが大事。 ● 日本語が話せない外国人への配慮も必要ではないかな。 ● 数値目標の達成度合いが低い。指標の設け方をもう少し弾力的にしても良いのではないかな。 ● 高齢者や学校終わりの学生、フリーランスの方などが、天候に関係なく、訪れることができる場所があるといい。 ● レンタサイクルや自動運転の車など、交通手段の整備。 ● 可児市の文化創造センターのようなコミュニティの場があると良い。 ● 天候に関係なく、展示、演奏ができる場所が限られている。村国座等を活用しているが、マンネリ化している。伊木山の公園などで実施できると良い。新しく作るのではなく、既存の場所を変えていければ良いと思う。 ● 全天候型化までは難しいが、電源があるだけでも違う。屋外施設のリニューアル時に、施設を使う側の目線で整備をしてほしい。 ● 文化を生かしたまちづくり。豊島区は消滅可能性がある中、文化による都市再生をおこなった。文化芸術に対する心理的抵抗感を下げ、広義の意味での文化についての取り組みをしていくことが大事。 ＜市や他団体との協働への希望、アイデア＞ ● 施設の中ではなく、公園でイベント等を開催するなど、興味が無い人も文化芸術に触れられる機会を提供する。 ● 「多目的トイレあり」「男性トイレでおむつ替え可」など、公共施設の設備一覧があると良い。 ● 車いすの侵入経路の案内や、ウェブサイトの読み上げ機能など、障がい者の属性に応じた案内があると良い。 ● 市の施設に出向いてイベント等を実施する機会もあり、市の施設について多く質問される。施設に関する情報を発信するアプリなどを整備しては。

(3) 文化・スポーツ・生涯学習

区分	主な意見
	● LINE で情報を発信しているが、市外の方からの見え方を踏まえた、一括して情報を見ることができ、検索するとすぐに出てくるウェブページなどがあると良い。
スポーツ 各務原市スポーツ少年団	＜関連分野において感じる課題＞ ● 団員の減少。1 つの学校だけでは野球などのスポーツのチームを組めない。コロナの影響による活動制限で一気に減少してしまった。 ● （クラブチームに入る子が増えており、中学校では陸上部に入り、クラブチームで野球を続けているケースもある。） ● 女子のスポーツ、女性指導者が少ない。 ● 小学生の親がスポーツに関心がない。 ● 市内施設を市外の人中心に使用している場合がある。（市のスポーツ団体を優遇するなど、取り合いにはならないような調整をしてほしい。） ● 公園でのボール遊び、道路でのキャッチボールなど、子どもたちが自由にスポーツをすることができない。 ● 中学校における部活動地域移行。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 総合運動公園に木がないため、木陰がほしい。市民公園に設置されているようなテントなどの休憩場所があるとよい。 ● 総合運動公園のこれからを検討すべき。出入口の増設や拡張についてなど。 ● 一つのスポーツにこだわらず、屋外・屋内スポーツ問わず施設を積極的に整備すべき。 ● 小網球場を市民球場に集約するなど、エリアごとにスポーツ決めてもいいのでは。 ● 全施設の予約を予約システムに一本化すべき。 ● 学校運動施設のあり方を検討すべき。予約システムでの予約を可能にするなどして、稼働率を上げてほしい。 ● 総合運動防災公園の他にも運動公園が必要ではないか。 ● 総合運動公園を各務原大橋に向かって拡張すべき。 ● 育成指導についての相談窓口の設置が必要ではないか。 ● 他の市内スポーツ団体も含めた実態を分析し、データに基づいて施策を考えてほしい。 ● 市の人口は減少しているが、色々なスポーツをする人は増えているので、各種競技がスムーズに行えるよう取り組んでほしい。 ＜市や他団体との協働への希望、アイデア＞ ● 今後指導者不足が考えられるため、あらゆる団体にジュニアスポーツに参加していただくことで、指導者を増やしたい。 ● 子育て団体などと連携し、幼児からスポーツができる環境づくりに取り組みたい。
生涯学習 中央ライフクラブサークル発表会実行委員会	＜関連分野において感じる課題＞ ● コロナの影響でサークル活動が停滞し、無くなったものもある。コロナが収束した後も、団体が増えてくる、サークル活動が活発になることもない。いつまでも働き続けている人が多いため、趣味に時間を割くことができなくなっているのではないかな。 ● 若者がサークルに入っていない。役員が回ってくることを嫌い、1 ～ 2 年でやめてしまう人もいる。 ● 以前は女性比率が高かったが、女性の社会進出が原因なのか最近では減少している。

(3) 文化・スポーツ・生涯学習

区分	主な意見
	● 近年は新規で設立されるサークルが少ない。日中に講座を行うサークルは多いが、夜の時間に講座を行うサークルは少ない。夜の時間での講座を増やすと、若者が参加できるのではないか。 ● 各サークルにおいて、メンバーの減少に伴い資金が不足している。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 昔は市内の全小学生が市民会館に集まって発表会を聞くイベントがあったが、無くなってしまった。ホールに入ったら喋らないなど、マナー醸成にもなっていたので復活できると良い ● 可児市の文化創造センターは素晴らしい。各務原市は行政が大きなイベントを引っ張っていくのではなく、各サークルに任せている。市民が集まってオペラを開催するイベントなどもない。人口の少ない他市と比較して、文化に関する施策が弱いと感じるため、他自治体を参考にすべきでは。 ● つながりづくりに取り組んでほしい。市民は人と人とのつながり、ぬくもりがほしいのではないか。 ● 文化行政を市民会館にもってきてもいいのではないか。以前は文化の分野にもっと予算がかかっていたと思う。 ● 10 年前と比較し、文化施策について何も変わっていないように感じる。以前は市民会館のホールで、芝居、世界的な音楽の催しなどがあったが、今はそういったものがない。

(4) 自然・環境

区分	課題・要望・提案
自然・環境 各務原市生活学校	<u><市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること></u> ● 自然の豊かさを維持しつつ、維持に加えたプラスアルファの取り組みがあるといい。 ● 例えば、フードドライブ活動の実施場所が増えるよう、また継続的に活動ができるよう、市から働きかけてもらえるとありがたい。

(5) 健康・医療・福祉

区分	主な意見
健康・高齢者福祉 グリーンベンチ男組	＜関連分野において感じる課題＞ ● 高齢者の増加や介護保険料の増額が見込まれる中、健康寿命の延伸は介護保険料の抑制にも繋がる重要な分野であり、地域全体で健康寿命の延伸に向けた取り組みを盛り上げていくことが重要。 ● 単に健康増進を謳うだけでは関心度を高めることは難しく、周知や発信方法の工夫が必要。 ● 地域包括支援センターの紹介により、新たに団体に参加する人もいるが、継続できず、途中で理由をつけて参加しなくなってしまう人が多いため、新たな参加者にとっても居場所となるような工夫が必要。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 地域内で、支え合い活動を行った場合にポイントが付与され、そのポイントを使って支え合い活動の支援が受けられるような、地域で助け合うための地域通貨のような制度があると良い。 ● 市として健康増進に関わる理念を定め、積極的な情報発信や PR を行うとともに、地域の病院などへも未病・予防に対する意識醸成を行い、地域の活動団体との繋がりをつくるなど、地域全体で健康増進の気風を高めて欲しい。 ● 活動からすぐに抜けてしまう人は、どの活動にどのような意味があるのかを理解されていないため、各活動に対する理解度を高めるような啓発を行ってほしい。 ● 地域全体で健康増進に取り組んでいる先進事例を調べ、そういった地域の工夫や取り組みを共有して欲しい。 ● 先進的に取り組んでいる、他地域の活動団体との交流の機会をつくって欲しい。 ＜市や他団体との協働への希望、アイデア＞ ● 健康・保健に関する専門家（医療機関、大学等）と連携した健康づくりの教室やデータ収集・分析。 ● 他地域で先進的な取り組みを展開している自治体や活動団体との交流。
健康・高齢者福祉 朝日町寿会シニアクラブ	＜関連分野において感じる課題＞ ● 定年が延長され、75 歳頃まで働く人も増えている。シニアクラブの活動は日中が中心のため、働いている人が参加することは難しい。シニアクラブは 60 歳以上から参加できるが、参加できる対象者が減少している。 ● 以前は地域の人から声をかけられてシニアクラブに参加する人が多かったが、地域のつながりが薄くなり、地域の中で果たす役割を意識する高齢者も減っている。 ● 高齢者が自分の趣味に合わせて活動しやすい世の中になってきているため、シニアクラブの活動に魅力を感じなくなってきている。 ● 多くのクラブにおいて、メンバーの高齢化が進んでおり、活動に参加するための移動手段がない、参加する体力がないことが原因で退会するメンバーもいる。 ● シニアクラブの活動を継続していく上で会長が担う事務業務への負担が大きい。スケジュール調整、チラシ作成、会員数の確保、会費の徴収など事務的な業務が増えている。次を担う世代からも嫌煙されることがある。

(5) 健康・医療・福祉

区分	主な意見
	<u><市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること></u> ● 自治会長の役割よりもシニアクラブの会長の役割の方が負担感が大きい。シニアクラブの活動も自治会活動と同様に市のサポートを受けられるような取り組みをしてほしい。 ● シニアクラブの活動を知らない人もいるため、広報紙に活動内容を定期的に掲載するなど、市としてシニアクラブの活動を周知し、市民に知ってもらえるようにしてほしい。 ● メンバーの高齢化に伴い、シニアクラブの活動（市内の広域的な大会やイベント）に参加する際に移動手段がないことが参加できない理由になっている。その日程に合わせた移動手段を確保する手立てがあるとよい。 <u><市や他団体との協働への希望、アイデア></u> ● コロナ禍前は自治会などの他団体と一緒に活動していたが、現在は関わりが少なくなっているため、復活させたい。 ● フレイル予防事業など、市の事業と一緒に取り組むを進められると良い。
障がい児福祉 ラルジュ那加（株式会社ラポール）	<u><関連分野において感じる課題></u> ● 昔は病名がなく、診断が出なかったような疾患が増えている（起立性調節障害など） ● 学習障害（LD）の児童も増えている。 ● 学習でつまづくことをきっかけにいじめなどが起こり、その結果、不登校になる子どもが多い。 ● 不登校児については、放課後等デイサービスでも受け入れてもらえないケースがある。（デイサービスにも定員があるため、急遽休む可能性が高い児童より、定期的に通うことができる児童を優先する傾向がある） ● 保護者の放課後等デイサービスへの理解度が低い。障がいのない兄弟まで預けたいといった要望を受けることもある。 ● 相談支援事業所の数が足りておらず、相談を受ける先が限られている。 ● 就学前・学齢期・義務教育期間終了後で、支援する制度、団体、部署が分かれており、支援の切れ目がある。 <u><市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること></u> ● 子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」（岐阜市）のような、0歳～20歳までを一貫して支援できる体制づくりを検討して欲しい。 ● 切れ目のない支援ができるような支援体制づくり。 ● 放課後等デイサービスなどの障がい児福祉に対する市民の理解向上。 <u><市や他団体との協働への希望、アイデア></u> ● 母子支援や教育などの様々な分野の部署や支援機関、障がいに理解のある民間企業との情報交換、関係づくり。

(6) 防災・防犯

区分	主な意見
防災 各務原防災推進ネットワーク	＜関連分野において感じる課題＞ ● 災害時の個人情報の取り扱いができない。（災害時のみ用途を限定して、自治会関係者や民生委員に対しては公開できるよう整備してほしい。） ● 自治会主導の防災体制となっているが、自治会役員が1年で交代するため、学習や総括がなく、ノウハウの蓄積ができない。 ● 災害時は物流が止まる。木曽川、長良川に囲まれ、橋の通行がなくなり、国道21号が主な搬路となるため、物資の確保が心配。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 備蓄品の不統一を認めるべき。適材適所に品目と数量を整備することで、地域の特性に合う防災対策ができる。八木山地区や尾崎地区などの丘陵地においては、水が枯渇しやすいため、より多くの水槽やポリタンクを整備することが可能となる。 ● 自治会と調整して、地域に需要のある備蓄品を決めてもよいのでは。 ● 地域の防災活動の継続性を図るには、自治会下部組織に防災会を設立する方法がよいと考えるため、まちづくり協議会や地区社会福祉協議会と同等の位置づけで設立し、設立奨励に対する助成金制度があるとよい。 ● 自治会が予算を持てるようになるため、自治会規約の改定を行い、自治会の下部組織の防災会とする。 ● 公民館などは自主避難所になる可能性が高く、休憩空間やプライバシー確保のため、防災の観点から避難所としての利用するための改修や、避難所とする手続きを簡単にしてほしい。 ● 女性割合が多いため、避難所における女性の活躍は必要不可欠であるとする。防災は3K（気づく、考える、行動する）のイメージがあるため、料理教室などから避難所等での活動に繋がれるようイメージチェンジしていけるとよい。 ● 高校生向けの防災体験を開催してほしい。賞味期限間近になった備蓄米を高校生に配布するなど、啓蒙啓発を行い意識付けを行うだけでも、いざという時に役立つと考える。 ＜市や他団体との協働への希望、アイデア＞ ● 課題把握と共有が重要であることから、交流による意見交換によって災害時の適切な判断につながると考えるため、様々な団体と情報共有したい。
防犯 小網町長寿会グリーンキャップ	＜関連分野において感じる課題＞ ● 川島地区は人口も増えているので、事件などが起こらないか防犯面で心配している。 ● 川島大橋の工事の影響や大型の運輸倉庫が建設されたことで、交通の流れが大きく変わっている。今のところ大きな事故はないが心配はしている。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 市内の同分野の団体の活動状況を知る機会があるとよい。 ● 市は団体活動の推奨や予算確保はしてもらえが、あとは結果のみを確認するだけで、活動の途中経過の聞き取りや関わりがない。特にシニア世代が中心の団体なので、バックアップしてもらえるとよい。

(6) 防災・防犯

区分	主な意見
	● 各自が自由な時間に同じ目的をもって柔軟に活動する団体にも手当てがあるとよい。保険の強化なども行ってほしい。 <u><市や他団体との協働への希望、アイデア></u> ● いずれは子ども会や青少年育成会とも連携したい。子どもの安全をシニア世代が見守り、子どもがシニア世代を元気づける。

(7) 都市基盤整備

区分	主な意見
都市基盤整備 耀く大野町まちづくり委員会	＜関連分野において感じる課題＞ ● 少子高齢化 (農業離れ、高齢者の孤立、空き家の増加) ● まちのスプロール化 (土地利用の阻害や浪費、インフラ整備・維持管理負担の増加、生活環境の悪化) ● 住民のまちづくりに対する関心の低さ (自治会存続の危機、担い手不足、自主防災組織の未発達) ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 「造る」から「活かす」への転換。 ● 民間の力を積極的に活用する。 ● 進出企業のために新たな工業団地を市が準備することも重要であるが、金属団地のような既存企業の成長も必要である。 ● 注文通りに作ったものを納めるだけでは、買い手に買い叩かれ、企業としての成長は難しい。新たな付加価値を生み出すことが、企業の成長につながると考える。 ● 生産活動が活発な“稼ぐ”地域ができれば、安心して働ける環境ができ、定住にもつながる。「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」を良いものに変える好循環が生まれる。 ● 行政の役割は、きっかけや仕組み作りを行うことであり、企業が成長するためには、企業自身の頑張りも重要である。 ● 大規模商業施設、物流企業、そして金属団地やインターチェンジ周辺の産業拠点、これらが連携することが安全・安心なまちづくりにつながると考える。
公共交通 岐阜乗合自動車株式会社	＜関連分野において感じる課題＞ ● 運転手の確保が必要。運転手不足を解消するために、外国人の運転手を増やしたいが、免許取得のハードルが高く困難。 ● 団塊世代の退職、魅力低下による新規職員の減少、働き方改革に伴う対応等。 ● 自動運転の環境整備について、リモコンによる運転は実用化されているが、現時点では1台につき1人の操作者が必要であり、運転手不足の解消には届かない。路上駐車している車両は手動で避ける必要があるなど、さらなる技術開発が必要。 ● 利用者が少ない路線は、廃止や減便の対象となる。さらなるバス利用者の確保が必要。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 利用者の確保に向けて、学生の利用者を増加させる施策があるとよい。定期券の学割は鉄道に比べると小規模であるため、市による学生の定期券に対する補助があるとよい。 ● 笠松駅～河川環境楽園を繋ぐ路線はあるが、河川環境楽園から空宙博等の他の観光拠点をバスで繋ぐような連携ができるとよい。 ● バスに限らずレンタサイクルやレンタルキックボード等の多彩な移動手段が選択できるようになるとよい。

(7) 都市基盤整備

区分	主な意見
	● 駅までの移動手段の利便性が上がれば、例えば各務原市内から名古屋市等に通勤する人が増え、人口減少防止の 1 つの策となるのではと考える。

(8) 産業・交流

区分	主な意見
農業 農業委員会	＜関連分野において感じる課題＞ ● 担い手の高齢化により、若い新規の農業の担い手が出てこない。現在の小規模な農地では採算が合わないことが原因として考えられる。 ● 農業ができる土地を預けたい人はたくさんいるが、受け手がいないことにより、耕作放棄地が増加している。 ● 農業の収益性の改善のためには、農産物を育てる圃場（ほじょう）の区画の拡大による効率化が必要。 ● 現状の小規模の農地を集めるだけでなく、畔（あぜ）を取りはらって、一枚の大きな農地とするなど、集積後の再整備を行う必要がある。 ● 農地の集約・集積が進まないことには、担い手不足の解消、スマート農業による効率化も進まない。 ● 各務原市の小規模農地では、費用対効果の問題から導入が進んでおらず、イチゴ栽培における室温管理センサーの活用等、小規模な活用に留まっている。農地が大規模となれば、トラクターの自動化等で収益性の改善が可能と考えられるため、まずは農地の集約・集積が先決。 ● 農地は、洪水防止、水源の涵養（かんよう）、景観等の多面的機能を有しているため、農地が減少しないように守っていかなければならない。多面的機能支払交付金制度など、農地保全活動に対する補助はあるものの、活用できているのは一部の地域のみであるため、全体に広げていく必要がある。 ● 農地を維持するという意識を持つ農地の所有者はそれほど多くない。地域で農地を守ると意識の醸成が必要。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 農振農用地の上位互換のような農地から転用できないエリアを設けられれば、優良な農地の保護につながる。 ● 農地の中にも、平らで活用しやすいエリアと、斜面等で活用しにくいエリアがある。 ● 農地の転用が異常なスピードで進んでいるという現状があるため、必要以上に転用できないような取り組みも必要ではないか。 ● 水田について、農地の集約を行っただけでは、区画間に畔（あぜ）等があることから、なかなか生産性が上がらないため、集約後の再整備が必要。 ● 農地の面積はできるだけ維持しつつ集約を進める必要がある。 ● 鵜沼ではにんじんという特産品ができたため、他の農作物についても、市の推奨、関係者の協力の上、新たな各務原ブランドを作ることにより、付加価値をつけていくと良い。 ● 農地は市民にとっての財産であるため、維持に対して取り組んでほしい。それが、景観、水源の涵養、防災といった多面的機能の維持につながる。農業を維持していくための取り組みを推進してほしい。 ● 工業、商業が優先されがちだが、農業に関する取組も重要であることを理解してほしい。 ＜市や他団体との協働への希望、アイデア＞

(8) 産業・交流

区分	主な意見
	● 農地所有者に対して、農地を守っていくことの重要性について理解してもらうことに協力してほしい。 ● 農地の維持には、地域の協力や理解が必要であり、地域を巻き込んだ活動をしていく必要があることから、最近では地域の子供たちを集めて、芋掘りや餅つきを行っている。 ● 用水路の泥上げを春と秋に行っているが、子の活動は地域全体の景観を守る活動でもあるため、自治会からも参加者を出してもらっている。そういった、互いに支え合う関係性を作っていくことが重要。
観光 各務原市観光協会	＜関連分野において感じる課題＞ ● 市の西側にあるイオンモールから東の鵜沼方面への回遊、犬山市周辺の市の東側から西の那加方面への回遊が少ない。 ● 都会と田舎が共存しており、非常に住みやすいまちだと感じているが、市民や市外の方々にそれがどれだけ伝わっているのかが課題。 ● 情報発信が弱いと感じる。SNS や動画配信など様々な媒体を活用して、より幅広く魅力を発信していく必要がある。 ● 全国的には市の知名度は低い。市内の観光資源は市民や周辺市町村の住民のためのものが多く、遠くから人を呼ぶほどのものが無い。飛騨高山のような観光地と同じように観光客に来てもらうことは難しいため、各務原市の実情に応じた取り組みをしていくことが必要。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 東京都では「ボタニカルシティ」をキャッチフレーズに、都会の中に緑を整備して誘客を行っている事例がある。各務原市も多くの公園が整備されていることから、自然を生かしたまちづくりをしていくのがよいのではないかと。また、東京都の事例のように、市のキャッチフレーズをつくり、市のイメージを定着させるのも有効ではないかと。 ● 木曽川周辺エリアを市の東の観光拠点として、更なる整備や有効活用、近隣自治体と連携した取組などに取り組むことで、さらなる誘客につなげることが可能なのではないかと。 ● 市内の3つの博物館（空宙博、くすり博物館、アクアト）の連携も現状はない。市内施設間の連携に取り組む必要があるのではないかと。 ● 道の駅、野菜の直売所は、関市や岐南町でも多くの人が集まっている。同様の施設を整備することで周辺地域から人を呼び込むことができるのではないかと。 ● 自治体などが開発する「ご当地 RPG」と呼ばれる、地方自治体を舞台に、特産品、観光名所等が登場するロールプレイングゲームが各地で登場している。市内にもゲーム会社があるため、連携して各務原市のゲームを作り PR するということはないかと。 ● 自然が豊かなまちをアピールするためのさらなる公園の整備や、各務原市の特色である製造業などの産業を交えた観光に関する取り組みなど、まちの魅力を伝え、誘客、さらには移住定住へとつなげていくための施策が必要。 ● 市内観光地や大規模商業施設との回遊が起きるような取り組みができるとよい。 ● 市民に誇りに思ってもらえるまちづくりが必要。そうなることで、市民自らが市の魅力を外に発信し、それが広がることによって、自然と人が集まってくるまちになる。

(8) 産業・交流

区分	主な意見
	＜市や他団体との協働への希望、アイデア＞ ● 木曽川流域での連携がより強まるとよい。 ● 市内の他の博物館等（空宙博、アクアトぎふ）との連携がより強化できるとよい。
観光 空宙博ボランティア	＜関連分野において感じる課題＞ ● 交通の便が悪い。駅からは遠く、バスもそれほど便利とは言えない。 ● PR が不足している。東京で開催された航空に関する展覧会に行った際、会場にいる人は誰も空宙博のことを知らなかった。飛行機が好きな人にすら、空宙博のことが知られていない。 ● 雑誌への情報掲載に取り組むべき。他の博物館では、イベント開催等に関する情報は専門誌に必ず掲載をされている。以前掲載に取り組んでいた時期はあったが、最近ではなされていない。（若者に対する SNS 等での PR はもちろん大事だが、上の年齢層に対しては、まだ雑誌での PR が必要。その分野が好きな人は雑誌を読むことが多く、情報に触れるきっかけとして雑誌は有効。その後、インターネットで詳細を知るという流れだと思う。実際、自分たちも、他の博物館の情報について雑誌を見て知り、遠方の博物館まで足を運ぶこともある。） ● 著名な先生による講演など、良いイベントを開催していると思うが、告知が弱いことで、イベントが終わってから、知っていれば行きたかったのという話を聞くこともよくある。県の発表のタイミングとの兼ね合いも原因としてあるのかもしれない。 ● 現状では、空宙博が他の博物館と連携していることが分かりづらい。そもそも連携自体が少ない。空宙博から他の博物館へ貸し出せるものが少ないため、展示品を用いた連携となると難しいのではないかな。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● シャトルバスの運行によるアクセスの改善。他の市内観光地との循環バスがあれば、施設間で観光客が往来でき、相乗効果があるはず。ただし、利用者がどれだけいるのかという課題はある。 ● 犬山市との連携を強化する。犬山市には中華圏からの観光客が一定数おり、その観光客が空宙博に立ち寄ることも現状ある。より連携を強化し、犬山市から各務原市への流れを作ることができれば、空宙博のみならず市内観光地の活性化に繋がると思う。 ● 雑誌掲載による PR を強化する。また、インターネットのポータルサイトでの PR についても強化するなど、今まで以上に積極的な PR 活動に取り組む。 ● SNS で情報を発信する際に、情報の内容が誤っていることがある。博物館という性質上、情報の誤りは致命的であるため、正確な情報発信に努める必要がある。 ● 空宙博のウェブサイトが少し見づらく地味だと感じる。今後改善予定とも聞いているが、インターネットで情報収集を行う層に対しては、ウェブサイトの見やすさは重要。 ● 関ヶ原古戦場では、自立走行型ロボットによる案内の実証実験を行っていた。人を避けながら訪問客を展示物へ連れていき、展示物に関する説明をするというもの。空宙博でも導入できれば、観光地としての魅力を向上でき、外国語対応もできれば、外国人観光客の誘客にもつながる。

(8) 産業・交流

区分	主な意見
	● 良い取り組みはたくさん行っていると思うので、その取り組みについての PR に積極的に取り組んでほしい。 ● 以前新聞やテレビに取り上げられた際には、かなり大きな反響があった。メディアに取り上げられるような取り組みをすることにより、市や施設の全国的な知名度を上げられるとよい。 <u><市や他団体との協働への希望、アイデア></u> ● 市内の他の博物館との連携ができればよい。歴史民俗史料館との協働は良いのではないかと感じている。

(9) 行財政

区分	主な意見
シティプロモーション 株式会社リトルクリエイティブセンター	＜関連分野において感じる課題＞ ● 各務原市は良いまちで暮らしやすく、不満はないが、航空自衛隊基地があるという特徴のみで、その他の特徴がない。 ● 岡崎市や岐阜市、一宮市などのような、あのまちに行ってみたいという特色がない。 ● 工業は強いが、商業という面では弱い。 ● 商店街の活性化に向けて、いかに支援していくかが難しい。 ● リトルクリエイティブセンターには県外から就職する人もいるが、近くに遊べる場所がないと聞いた。 ● 駅周辺に特徴的なエリアがない。 ● リトルクリエイティブセンターと広報課で実施しているシティプロモーションが難しい。移住定住や観光、商業へとつながっていくシティプロモーションの成果は見えづらい。 ＜市が進めている施策の改善策、新たなアイデア・今後のまちづくりに期待すること＞ ● 商業を発展させていくとよい。商店街の元気がなく、どんどん家や駐車場に変わってしまっている。商業地であるため、住宅街になってしまうとその役割が果たせない。 ● ビジョンを明確にして、官民が連携して事業を進めていくべき。 ● 官民連携について、各務原市は進んでいると思っているし、周りの人からも進んでいると聞く。ここを醸成していけば市の強みとして生かせるのではないかな。 ● 市の広報課の担当者が人事異動で次々と変わってしまうので、継続性がない。市が進めたい方向性がわからないため、継続できる仕組みづくりをして欲しい。 ● 移住者を増やしたいのであれば、魅力のある仕事が必要。まちが良いだけでは足りず、仕事を紹介するなどの取り組みが必要ではないかな。 ● 新しいことに寛容なまちというイメージがある。何もないということが強みかもしれない。商店街でも周りの人が応援してくれる。 ● 官民連携について、ポジションごとに取り組むべきことが明確になっているといい。 ＜市や他団体との協働への希望、アイデア＞ ● 官民連携に力を入れていく。行政と民間がそれぞれ共有しあい、シナジー効果を生み出す。民間がまちの魅力を引き出していきたい。勝手に取り組むのではなく、行政と一緒に取り組み、発信していく。

資料：ヒアリング記録

01.市民協働一岐阜友の会

項目	ヒアリング情報
日時	2月13日（火）15：00～16：00
企業・団体名	岐阜友の会
活動内容	乳幼児と母の集まり、小中学生の生活クラブ、高齢者の集まり、料理講習、家事と家計の講習会、SDGs 推進、環境を大切にする昔からの知恵の共有、手作り品マルシェ、福祉施設への支援、災害支援など
ヒアリング項目	回答内容
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 核家族やワンオペ育児、孤独な高齢者が増えている。コロナを契機に自治会活動も減少し、地域のつながりが弱くなっている。 ● ワンオペ育児を支える人、支える場所がない。ただでさえ不安を抱えている人に多くの情報を与えても何が大切かわからず、より不安になるだけである。 ● 子ども館は子ども向け施設であり、父母向けの、意見を聞いてもらいホッとできるような施設がない。こうした場の設置を目的として市内で活動しようとする、会場費がかかることがネックになっている。 ● 昔のように、地域の子どもの地域全体で育てるという意識が希薄化している。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 講座で希望者を集めるのではなく、気軽に立ち寄り、話することができる場所が必要。そこで不安を取り除くための寄り添い話ができるとうい。 ● マッチング事業の小規模版として分野別マッチング事業を開催して欲しい。子育て分野、環境分野など、同分野のつながりを強化させたい。 ● 子育て分野の情報ネットワーク体制を構築して欲しい。複数団体が集まることで、1 団体では実現できないことを実現させたい。 ● 関市では「岐阜友の家」という施設があるが、各務原市にもあるとうい。 ● 市民活動団体のチラシを置くブースを設置して欲しい。 ● 地域で管理するふれあいセンターなど、シニア世代の拠点となる場所に気軽に立ち寄れるように開放して欲しい。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	-
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	-
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	-
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	● 他団体がいつ、どこで、どのような活動をしているか知りたい。
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 時間に余裕のある人や、意欲的に活動できる高齢者などと、手助けが必要な人や勉強を見て欲しい小中学生などをつなげる仕組みがあるとよい。 ● 子ども館と連携したい。子どもを遊ばせている間に、母親の相談相手となって不安を取り除く取り組みをしたい。 ● 緑苑「ふらっと」や八木山「ささえあいの家」など、積極的に活動している社会福祉協議会と連携したい。
8. その他	● 段ボールコンポスト、貯水タンクに補助金があるとよい。

02.出産・子育て・教育—子育てサークル（しゃんしゃん、はむえっぐ）

項目	ヒアリング情報
日時	2月4日（土）13：00～14：00
企業・団体名	子育てサークル（しゃんしゃん、はむえっぐ）
活動内容	子育て関連のイベント開催など
ヒアリング項目	回答内容
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 保育士の労働環境が整っていると、子どもやその親にも還元される。現場の労働環境に重きを置いて施策を実施することや、保育士の給与面を含めた待遇の向上が必要。 ● 保育士免許を持っている母親も周囲にいるが、愛知県など条件のより良い所を働き場所として選択する方がいる。子ども館でも、夕方など人手が不足していると聞いた。市内の保育に関わる方の待遇がよければ、子どもに還元されるものも増える。 ● 人気の保育園、体験ができる保育園などがあるが、そこに子どもを預けられなければ働くことを諦める実情がある。保育園が合わず、退職退園の両方を選択せざるを得ない人もいる。 ● 具体的な事例として、子どもが髪の毛にご飯粒を付けたままの事があるなど、預けた保育園の衛生環境が不安になり退園し、預け先がなく仕事も退職したケースがある。保育士が不足する事で一人ひとりの子どもに目が届かないことや、衛生環境の充実に手が回らない実情があると思う。 ● 待機児童はないが、兄弟で別々の園に預けなければならない、希望の園に入れないなどの声を聞く。 ● 転勤のある家庭などは地元の友人や家族とも離れるため、身近に頼れる人がおらず不安が大きい。（マタニティ広場、子ども館などは同じ年の子を持つ他の親と知り合うことができ、県外から来た夫婦などにとっては不安を共有できる仲間を持てるため、とてもありがたい。） ● ペーパードライバーのため、子ども館へは、20分かけて徒歩で通っていた。子育てにおいても車移動前提のまちだと感じている。 ● ふれあいバスは1乗車100円で安いですが、もっと料金を上げて良いので便利になってほしい。鶴沼側は便数が減少し、チョイソコは前日に予約が必要であるため、高齢者の通院などには良いと思うが、子どもとの利用となると体調や機嫌に左右されるので利用しづらい。（柔軟に対応してもらえるのかもしれないが、案内の記載を読んで利用できないと諦めている） ● 病児・病後児保育（こあら）の使い方がわかりづらく、うまく利用できていない。 ● 父親は仕事が休めず、母親が体調不良のときがある。授乳中だと強い薬は服用できないため大変。そうした時に頼れる先があるとありがたい。 ● 小学校において、多文化共生が実感できない。 ● スマート連絡帳が使いづらい。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	【プラスの魅力づくりとして】 ● 学童での給食や宅配弁当。（長期休み期間中の弁当を理由に幼稚園から保育園に変更する人もおり、それほど親にとって弁当作りは負担になる。） ● 学用品や自転車の購入助成。 ● ベビーベッドやチャイルドシートの貸出。（市が実施することで安心して利用できる） ● 習い事の助成。また、習い事の送迎や保育園での教室実施（スイミングなど民間企業や市が行っているスポーツ教室、知育学習の補助）があると嬉しい。（幼稚園での経験の差を心配する親がいることや、15～17時の保育士の負担軽減にも繋がる） ● 総合福祉会館の一部が新型コロナウイルスワクチンの関係で使えなくなっており、子育てサークルで利用できるように貸し出しを再開してほしい。 ● 産後の事業はとても充実しており驚いたが、インフルエンザ予防接種の助成がなくなったことや、産前のつわりへの補助がなく病院での点滴などに費用がかかったことから、そうした産前のケアについても行政の助けがほしい。 ● おむつの補助。

	● 自治会との関わりが薄いため、転入時など、自治会長名や連絡先などについて、市から事前に案内があると安心。市外からの転入があった自治会にとってもメリットがあるので、子ども館の掲示板から市の様々な情報を入手しているので、そこに案内があるとよい。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 子どもの有無に関わらない、あらゆる家庭に対する人口を流出させない取り組み。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 子どもが小学生になると廃止する団体もあるが、しゃんしゃんでは残りたい人が多く、活動を継続していく。 ● 複数の団体に所属しているが、実際に参加する人の意向により活動していけたらと思う。 ● 親に頼れない人や仕事をしている方同士で、子どものお風呂や学校の宿題など、ママ達で助け合っていく仕組みづくりをしていきたい。 ● 宿題をする習慣が学童では身につくが、自宅だと難しいため、ミニ学童のような取り組みができないか企画している。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● スポーツ団体や出前講師の利用（リトミックなど） ● 様々な施設が借りられるとよい。年長にもなると、公共施設よりもボウリングなどの民間施設に行っている。公共施設でも楽しめる場所があると嬉しい。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 地域でのつながりを生かしたミニ学童運営の形として、実際のお寺で寺子屋を行う。 ● 学校との連携がさらにできれば、不登校を減らすことにつながると思う。
8. その他	● 沖縄県から転勤で各務原市に来た友人は、隣近所や子ども館のスタッフなど、人が優しくあたたかいと、このまま移住したいと話していた。 ● 地元と比較しても、各務原市はちょうど良い規模で発展しており、自然もある。人のあたたかさがあるため、子育てしやすいと感じている。子どもが小学生に上がり、通学路での見守りも本当にありがたいと思った。治安がよい。 ● 子ども館も毎日開館していて驚いた。おもちゃが多くあるとともに、広いスペースが使える、子育てをする上で重要な場所となっている。 ● 上の子と下の子の 2 人の子育てをしていると、以前よりも子育てに関する市の環境は良くなっている実感がある。

02.出産・子育て・教育—こもれび食堂（社会福祉法人小松河福祉会）

項目	ヒアリング情報
日時	2月15日（木）14：00～15：00
企業・団体名	こもれび食堂（社会福祉法人小松河福祉会）
活動内容	保育所・高齢者施設の運営
ヒアリング項目	回答内容
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 子ども食堂の活動においては、法人・団体ともに、お金の問題よりも、同じ志をもった人が集まれるかどうか活動が継続していくうえで重要だと感じる。 ● 社会福祉法人でも、高齢者施設の職員にとっては、利用者第一であり、子どものための活動について理解を得て、同じ熱量で取り組む仲間を見つけていくことが難しい。 ● 「働くお母さんの会」（全国のお母さんで構成）に参加する中で、親自身が病気のときに、子どもの預け先がないことや、病児・病後児保育が利用しづらいとの声を聞く。 ● 保育所の運営では、未就園児とその親が通う場（クラブ）を設けている。子どもに関する些細なことでも、不安を抱え、悩んでいるお母さんが多い。（そうした親が気軽に集える場所づくりができれば良い） ● SNS等の情報に振り回され、不安を一人で抱えてしまっているケースがある。 ● 子ども会の活動は、親への負担から継続が難しい地域がある。川島地区では子ども会がなくなってしまった。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 子ども会での活動で大変なことは、イベントの企画・運営や参加している子どもへの注意。体操教室や工作体験など、イベントを実施できる団体や企業をリスト化し、市から情報提供があると良い。子ども会で集まる際には、イベントの進行等を団体や企業に委託できれば、担い手の負担が大幅に軽減されると思う。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	-
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 子ども食堂の運営では、地域のお店をできる限り活用している。子ども会のように、一人ですべての運営を企画するよりも、市内のお店の力を借りることで、運営側の負担を減らすことができ、子どもたちにも多様な体験を提供できるため、継続していきたい。 ● 赤ちゃんボランティア（赤ちゃんの親と高齢者をつなぐイベント）の活動を始めており、今後も拡充していきたいと考えている。 （高齢者にとっては、乳幼児と関わる機会は生活の中でよい刺激となっており、大変喜んでもらえる。） （高齢者との交流では、子どもだけでなく親も褒められることで、子育ての中で悩みを抱え孤立しがちな親にとって、不安を解消する良い機会となっている。） （アレルギー症状などにも、他の人の目があることで早期に気づくことができ、子育ての先輩である高齢者との関わりは、親にとっても重要な機会だと実感している。）
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 赤ちゃんボランティアなどの活動の際に、高齢者施設職員にとっては新たな負担にもなるため、職員内で同じ目的・志を共有し、実施していくことに現状課題がある。そのため、無理に進めるのではなく、少しずつ実施の機会を増やしていけたらと考えている。 ● 乳幼児・高齢者双方にとって、安全面での配慮が必要なため、活動時には注意深く見守りが必要。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	-

8. その他	● 両親の助けが得られること以外に、「地元での楽しかった経験を子どもたちにも」という思いがあり地元に戻ってきた。特別にこの施設・イベントがあるからということではなく、地域の活動など、自身の子どもの時代の楽しい経験から地元への愛着が自然と生まれてきたと感じている。 ● 蘇原大島町では相撲大会があったが、コロナをきっかけに中止となってから復活できず、なくなってしまった。自分が通った学校に子どもが通うことや、体験したイベントを子どもと共有できることを嬉しく感じていたため、子どもたちの体験のためにも、地域の行事などは守っていきたい。 ● 他自治体の社宅やマンションで生活していた時には、近所とは挨拶もない間柄だったが、市に戻ってくると、餅まきに向かう子どもに地域の方がたくさん声をかけてくれるなど、地域のあたたかさを感じられている。 【市の事業の中で有効だと感じるもの】 ● 担い手マッチング事業：子ども食堂を運営する団体間での集まりがあり、有益な情報交換ができた。 ● 介護求人ガイドブック：ガイドブックの掲載情報を見て、子連れ出勤や、高齢者と子どもの交流といった、「みんなが一緒にいられる場所」に共感した職員が転職してきてくれた。
--------	--

02. 出産・子育て・教育—稲羽中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

項目	ヒアリング情報
日時	2月9日（金）15：00～16：00
企業・団体名	稲羽中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）
活動内容	地域・学校・家庭で連携した教育の推進
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 地域連携（読み聞かせボランティア）の中でも、子どもたちと接する中で、小学生の社会性の乏しさ（静かに話がきけない子が多い、じゃんけんルールがわかっていない）など、コロナの影響を心配する声がある。人間関係を学ぶ場、遊びの場などを大切にしていける必要がある。 ● コロナの影響に限らず、不登校の傾向が6年生になって突然始まるケースや、親離れできず、集団になじめない1年生、個別支援が必要な子の数は全国的にも市内でも右肩上がりとなっている。 ● 子どもたちのための活動（資源回収による学校運営費用の確保など）の重要性や地域の実情に合わせた方法変更について、地域が理解したうえで、支えてもらえるような工夫が必要。（自治会を通しての丁寧な説明など） ● 共働きの親の余裕がない。自身の子どもについての問題に向き合えず、学校に問題の責任を問うという関連性もみられるため、親が余裕を持てるように働きかけていくことが必要。 ● 地域の方と児童とのつながりだけでなく、保護者にも「地域の方に支えられている」ことが伝わる工夫が必要。 ● PTAに入らない方も多くなっている。今は問題が顕在化していないが、このまま増加すると問題が発生するのではないか。 ● 小学校では登下校により地域や親同士のつながりがあるが、中学校ではそうしたつながりが薄れるため、不安なことを相談できる相手がおらず、孤立しやすい。 ● コロナの影響もあり、親同士のつながり、情報共有が薄れている。（そうした意味で地域の運動会などイベントの再開は大切。） ● 怒るだけで、叱ることができない親も多い。（地域での活動を通して、子ども本人が悪いと気づかずに行ってしまっているいたずらなど、いけないことをきちんと教えてくれる地域の方の存在は大切。） ● 親が学校運営に求めるものが多くなっており、コミュニティ・スクールを通して見ていると、学校の負担が大きすぎると感じる。教員確保の観点からも、部活動の地域移行など、教員の負担軽減は重要。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 教育関係の各種取り組みについて、市民にわかりやすく説明すべき。 ● 教育にとって、自治会や子ども会とのつながりが重要だが、継続して取り組んでいくためには輪番制だと実現が難しい。市には、自治会加入や親同士のつながりによるメリットを市民に伝えていくことや、リーダーシップを期待したい。 ● 地域とのつながり、親同士のつながりの希薄化・無関心化が見られる一方で、授業参観は参加が多くなっている（自分の子への関心は高い）ため、そうした機会を活用し、地域や親同士のつながりの重要性やメリットを伝えられないか。 ● 連携できそうな保健師、保育士の情報が運営協議会を通して校長に伝えられる場面があった。地域の方からの情報共有も大切だが、本来は市からこうした情報提供があるとうい。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 運動会は3世代が集まる大切な場だが、コロナを経てなくなっている。現状に合わせたイベントのアイデアや、他の地域の活動事例の共有などを行い、盛り上げていく支援を期待したい。 ● イベントに限らず、地域活動を続けていくためのノウハウを蓄積・共有し、支援してもらうことで、地域の活動が継続できるよう取り組んでほしい。 ● 学校給食の無料化。 ● 水の問題の安心に関する周知、血液検査の実施。

4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 「子どもたちのために」という活動目的を地域が理解できるような伝え方の工夫が必要。（連合会長、自治会長を通して地域住民に理解を得られるようにしたい。） ● 交通安全の見守りで街頭に立つと、小学生でも自ら挨拶してくれる子やはっきり返事ができる子が多い。もともと反応が少なく不安があった地域も、継続により反応が増えてきた。子どもから自然と声が出るまで、大人から声をかけていくことが大切。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 地域で連携できる方（保育士等）の見つけ方に乏しい。 ● スマート連絡帳について、緊急時に既読が付かない現象（通知を開かなくても読むことができるので、「確認しました」ボタンを押す人が減ってしまっている現象）や、そもそもの使い方が見守り隊の方に浸透していないなどの課題がある。（70 名の見守り隊がいるが、スマート連絡帳への登録は数名のみ。）
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	-
8. その他	● ゴミの回収では、自治会加入者との区別がなく不満のもとになっている。市側による説明・リーダーシップが重要。 ● 学校だけではなく、家庭での教育も不可欠。 ● ベテランの自治会連合会長は強いリーダーシップで活動を再開しているが、輪番制による影響で運動会が復活できない地域がある。ボランティアにより、子ども会と連携した取り組みを開始する予定。

03.文化・スポーツ・生涯学習—公益財団法人かかみがはら未来文化財団

項目	ヒアリング情報
日時	1月23日(火) 10:00~11:00
企業・団体名	公益財団法人かかみがはら未来文化財団
活動内容	コンサート、美術展、各種講演会等の文化事業の実施
ヒアリング項目	回答内容
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 10代、20代といった若い世代の文化芸術への関心が低い。コンサートも地元でなく名古屋や東京に行ってしまう。地元で見る慣習がない。 ● 障がい者の方が、快適に文化施設に訪れることができるような施設のバリアフリー化。 ● 公共交通のアクセス、臨時バスなどの整備。 ● 広い世代、文化芸術に興味のある高齢者や子育て世代への周知、集客。 ● 文化・芸術という言葉が固い。かしこまった、手の届かない印象を受けてしまう。 ● 障がい者向けのイベント開催が少ない。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 学校の授業の一環でアーティストの演奏を聴くことに加え、ホールの見学をするなど、音楽に触れるだけでなく裏方にも目を向けることで、子どもたちがあらゆる視点から物事を見られるのではないかな。 ● 障がい者の利便性の視点から、難聴者向けのヒアリンググループの導入など、障がいに応じた設備を導入すると良い。障がい者への理解を深めていくことが大事。 ● 日本語が話せない外国人への配慮も必要ではないかな。 ● 数値目標の達成度合いが低い。指標の設け方をもう少し弾力的にしても良いのではないかな。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 高齢者や学校終わりの学生、フリーランスの方などが、天候に関係なく、訪れることができる場所があるといい。 ● レンタサイクルや自動運転の車など、交通手段の整備。 ● 可児市の文化創造センターのようなコミュニティの場があると良い。 ● 天候に関係なく、展示、演奏ができる場所が限られている。村国座等を活用しているが、マンネリ化している。伊木山の公園などで実施できると良い。新しく作るのではなく、既存の場所を変えていければ良いと思う。 ● 全天候型化までは難しいが、電源があるだけでも違う。屋外施設のリニューアル時に、施設を使う側の目線で整備してほしい。 ● 文化を生かしたまちづくり。豊島区は消滅可能性がある中、文化による都市再生をおこなった。文化芸術に対する心理的抵抗感を下げ、広義の意味での文化についての取り組みをしていくことが大事。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 市の様々な場所で、音楽や文芸など、日常的に文化芸術に触れることが出来る機会を提供することが財団の目的。今だけではなく、10年後、20年後も継続できるよう、人材の育成が大事。 ● 文化会館の指定管理者に指定された場合でも、市民の文化芸術への関心は様々な所から始まるため、その他施設においても積極的にイベントを実施していきたい。 ● アート企画展で指導者の方を呼ぶ。 ● 初めてホールに来る方を対象とした、絵本や紙飛行機イベントなどのホールフェスタを開催したい。 ● 講師が講演に来るだけでなく、講師と地域の方が交流できる場としたい。 ● 福祉施設のみならず、学習を支援している場やこども食堂などにも文化芸術を提供していきたい。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 若者の参加が少ない。高齢者の参加率が高い。 ● アーティストを育成する場が少ない。有名なアーティストのコンサートだけでなく、有名なアーティストから指導を受けられる場があっても良い。才能はあるが、伸びる機会がない人がいる。 ● 指定管理について。他市の指定管理者など、利害関係のない第三者の意見を聞きたい。 ● 九州や関西等のあらゆるエリアのエッセンスを取り入れたい。

	● 経営目線では、国や市の補助金や市の受託金、賛助会費、事業収益で運用しているが、独自で大きな事業を実施したいと思っても、予算が足りない。公益財団法人ではあるため、収益を上げたい訳ではないが、大きな事業を実施するためにも資金が必要となるため、市で弾力的に対応いただけると良い。 ● 我々の役割は、アウトリーチしたいと思っている人と、アウトリーチされたいと思っている人をつなぐことだが、他団体からは、財団ですぐに何かやってもらえると思われてしまう。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 施設の中ではなく、公園でイベント等を開催するなど、興味が無い人も文化芸術に触れられる機会を提供する。 ● 「多目的トイレあり」「男性トイレでおむつ替え可」など、公共施設の設備一覧があるといい。 ● 車いすの侵入経路の案内や、ウェブサイトの読み上げ機能など、障がい者の属性に応じた案内があると良い。 ● 市の施設に出向いてイベント等を実施する機会もあり、市の施設について多く質問される。施設に関する情報を発信するアプリなどを整備しては。 ● LINE で情報を発信しているが、市外の方からの見え方を踏まえた、一括して情報を見ることができ、検索するとすぐに出てくるウェブページなどがあると良い。
8. その他	-

03.文化・スポーツ・生涯学習―各務原市スポーツ少年団

項目	ヒアリング情報
日時	2月6日（火）19：00～20：00
企業・団体名	各務原市スポーツ少年団
活動内容	子供たちに対するスポーツ機会の提供
ヒアリング項目	回答内容
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 団員の減少。1つの学校だけでは野球などのスポーツのチームを組めない。コロナの影響による活動制限で一気に減少してしまった。 （クラブチームに入る子が増えており、中学校では陸上部に入り、クラブチームで野球を続けているケースもある。） ● 女子のスポーツ、女性指導者が少ない。 ● 小学生の親がスポーツに関心がない。 ● 市内施設を市外の人中心に使用している場合がある。（市のスポーツ団体を優遇する、取り合いにはならないような調整をしてほしい。） ● 公園でのボール遊び、道路でのキャッチボールなど、子どもたちが自由にスポーツをすることができない。 ● 中学校における部活動地域移行。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 総合運動公園に木がないため、木陰がほしい。市民公園に設置されているようなテントなどの休憩場所があるとよい。 ● 総合運動公園のこれからを検討すべき。出入口の増設や拡張についてなど。 ● 一つのスポーツにこだわらず、屋外・屋内スポーツ問わず施設を積極的に整備すべき。 ● 小網球場を市民球場に集約するなど、エリアごとにスポーツ決めてもいいのでは。 ● 全施設の予約を予約システムに一本化すべき。 ● 学校運動施設のあり方を検討すべき。予約システムでの予約を可能にするなどして、稼働率を上げてほしい。 ● 総合運動防災公園の他にも運動公園が必要ではないか。 ● 総合運動公園を各務原大橋に向かって拡張すべき。 ● 育成指導についての相談窓口の設置が必要ではないか。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 他の市内スポーツ団体も含めた実態を分析し、データに基づいて施策を考えてほしい。 ● 市の人口は減少しているが、色々なスポーツをする人は増えているので、各種競技がスムーズに行えるよう取り組んでほしい。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 市スポーツ少年団は現在7種目の団体になっているが、今後すべてのスポーツ協会が少年団に入入ることを希望している。 ● アクティブチャイルドクラブの活動は人気があり、今後も力を入れていきたい。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 人口減少によるスポーツ人口の減少。 ● 企業等のバックアップがさらに必要。 ● 団員が減り、補助金もそれに応じた額となるため資金不足である。 ● スポーツ推進員の活動をさらにアピールする必要がある。 ● 子どもたちが市外のクラブチームへ行ってしまうこと。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	● 各種大会において、企業等にスポンサーになってもらう。 ● 市民利用の場合は、施設利用料（ナイター料など）を安くする。
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 今後指導者不足が考えられるため、あらゆる団体にジュニアスポーツに参加していただくことで、指導者を増やしたい。 ● 子育て団体などと連携し、幼児からスポーツができる環境づくりに取り組みたい。
8. その他	● 市内に大きなスタジアムが必要。2～3万人が収容できる施設があれば他市からでも各務原市に来てくれる。音楽・スポーツなどに力を入れることが重要。 ● さいたま市や、掛川市、袋井市の小笠山総合運動公園エコパなどが参考になる。

03.文化・スポーツ・生涯学習—中央ライフデザインセンタークラブサークル発表会実行委員会

項目	ヒアリング情報
日時	1月30日(火) 10:00~11:00
企業・団体名	中央ライフデザインセンタークラブサークル発表会実行委員会
活動内容	各種クラブサークル活動、クラブサークル発表会の実施
ヒアリング項目	回答内容
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● コロナの影響でサークル活動が停滞し、無くなったものもある。コロナが収束した後も、団体が増えてくる、サークル活動が活発になることもない。いつまでも働き続けている人が多いため、趣味に時間を割くことができなくなっているのではないかな。 ● 若者がサークルに入っていない。役員が回ってくることを嫌い、1~2年でやめてしまう人もいる。 ● 以前は女性比率が高かったが、女性の社会進出が原因なのか最近では減少している。 ● 近年は新規で設立されるサークルが少ない。日中に講座を行うサークルは多いが、夜の時間に講座を行うサークルは少ない。夜の時間での講座を増やすと、若者が参加できるのではないかな。 ● 各サークルにおいて、メンバーの減少に伴い資金が不足している。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 昔は市内の全小学生が市民会館に集まって発表会を聞くイベントがあったが、無くなってしまった。ホールに入ったら喋らないなど、マナー醸成にもなっていたので復活できると良い。 ● 可児市の文化創造センターは素晴らしい。各務原市は行政が大きなイベントを引っ張っていくのではなく、各サークルに任せている。市民が集まってオペラを開催するイベントなどもない。人口の少ない他市と比較して、文化に関する施策が弱いと感じるため、他自治体を参考にすべきでは。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● つながりづくりに取り組んでほしい。市民は人と人とのつながり、ぬくもりがほしいのではないかな。 ● 文化行政を市民会館にもってきてもいいのではないかな。以前は文化の分野にもっと予算がかかっていたと思う。 ● 10年前と比較し、文化施策について何も変わっていないように感じる。以前は市民会館のホールで、芝居、世界的な音楽の催しなどがあったが、今はそういったものがない。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	-
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	-
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	-
8. その他	● 貸出の畑(市民農園)が増えると良い。子供が土に触れる機会が少ない。 ● 市民会館は、出演者からは音響が良いと評判が良く、駐車場も整備されており、良い施設であると思う。

04.自然・環境―各務原市生活学校

項目	ヒアリング情報
日時	2月26日(月) 9:00~9:45
企業・団体名	各務原市生活学校
活動内容	団体のテーマ:美しくらしやすい都市(まち)づくり 活動例:河川の水質調査、フードドライブ活動、環境問題の啓発
ヒアリング項目	回答内容
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	-
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 自然の豊かさを維持しつつ、維持に加えたプラスアルファの取り組みがあるといい。例えば、フードドライブ活動の実施場所が増えるよう、また継続的に活動ができるよう、市から働きかけてもらえるとありがたい。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	-
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 今後も水質調査や廃油せっけんづくり、啓発活動をメインとして活動を継続しつつ、余力があれば子ども食堂への支援をしていきたい。 ● 会員を増やしていきたい。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 会員の高齢化が進んでいるため、若年層とさらに交流し、会員を増やしていきたい。 ● フードドライブ活動においては、提供先で大変喜んでもらえ意義を感じているが、実施回数を増やし、継続的に活動していくためには、開催できる場所が少ない。 ● 長年取り組んでいる廃油せっけんづくりについては、廃油の集まる量が少ない。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 活動の幅が広がるため、子ども食堂などの福祉系の団体や、子育て支援系の団体との交流、マッチングできる支援があればありがたい。
8. その他	● 川島地区では、ふれあいバスの本数が少なく不便であるという話をよく聞く。また、電車が通っていないため子どもたちの通学も不便である。豊かな自然を維持しつつ、交通面で便利になっていくといい。 ● ショッピングセンターでの啓発活動時に、廃油せっけんづくりの経験者と話ができて嬉しかった。今後も活動を継続していくモチベーションとなった。

05.健康・医療・福祉―グリーンベンチ男組

項目	ヒアリング情報
日時	2月5日(月) 11:00~12:00
企業・団体名	グリーンベンチ男組
活動内容	男性に特化したフレイル予防の推進(体操教室や座学など)
ヒアリング項目	回答内容
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 高齢者の増加や介護保険料の増額が見込まれる中、健康寿命の延伸は介護保険料の抑制にも繋がる重要な分野であり、地域全体で健康寿命の延伸に向けた取り組みを盛り上げていくことが重要。 ● 単に健康増進を謳うだけでは関心度を高めることは難しく、周知や発信方法の工夫が必要。 ● 地域包括支援センターの紹介により、新たに団体に参加する人もいるが、継続できず、途中で理由をつけて参加しなくなってしまう人が多いため、新たな参加者にとっても居場所となるような工夫が必要。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 地域内で、支え合い活動を行った場合にポイントが付与され、そのポイントを使って支え合い活動の支援が受けられるような、地域で助け合うための地域通貨のような制度があると良い。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 市として健康増進に関わる理念を定め、積極的な情報発信やPRを行うとともに、地域の病院などへも未病・予防に対する意識醸成を行い、地域の活動団体との繋がりをつくるなど、地域全体で健康増進の気風を高めて欲しい。 ● 活動からすぐに抜けてしまう人は、どの活動にどのような意味があるのかを理解されていないため、各活動に対する理解度を高めるような啓発を行ってほしい。 ● 地域全体で健康増進に取り組んでいる先進事例を調べ、そういった地域の工夫や取り組みを共有して欲しい。 ● 先進的に取り組んでいる、他地域の活動団体との交流の機会をつくって欲しい。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	-
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 年々高齢化が進んでおり、このまま人数が減ってしまうと活動ができなくなる可能性があるため、次の世代の取り込みが課題。(現状メンバーは19名で、平均年齢は81歳)
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	● 健康増進に関心を持つ地域や、活動に参加したいと思う人を増やすための積極的な情報発信・PR。
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 健康・保健に関する専門家(医療機関、大学等)と連携した健康づくりの教室やデータ収集・分析。 ● 他地域で先進的な取り組みを展開している自治体や活動団体との交流。
8. その他	● 男性をターゲットとしたフレイル予防活動は全国的にも珍しく、大学や医療機関などに関心を寄せている。身体機能等に関する測定・データを提供する代わりに、大学教授、医師らに定期的に講座の講師を務めてもらっている。 ● 川島地区の地域包括支援センターが活動を視察に来るなど、市内他地域からも関心を寄せられている。

05.健康・医療・福祉—朝日町寿会シニアクラブ

項目	ヒアリング情報
日時	2月20日(火) 11:00~12:00
企業・団体名	朝日町寿会シニアクラブ
活動内容	鵜沼朝日町のシニアクラブ活動
ヒアリング項目	回答内容
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 定年が延長され、75歳頃まで働く人も増えている。シニアクラブの活動は日中が中心のため、働いている人が参加することは難しい。シニアクラブは60歳以上から参加できるが、参加できる対象者が減少している。 ● 以前は地域の人から声をかけられてシニアクラブに参加する人が多かったが、地域のつながりが薄くなり、地域の中で果たす役割を意識する高齢者も減っている。 ● 高齢者が自分の趣味に合わせて活動しやすい世の中になってきているため、シニアクラブの活動に魅力を感じなくなっている。 ● 多くのクラブにおいて、メンバーの高齢化が進んでおり、活動に参加するための移動手段がない、参加する体力がないことが原因で退会するメンバーもいる。 ● シニアクラブの活動を継続していく上で会長が担う事務業務への負担が大きい。スケジュール調整、チラシ作成、会員数の確保、会費の徴収など事務的な業務が増えている。次を担う世代からも嫌煙されることがある。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 自治会長の役割よりもシニアクラブの会長の役割の方が負担感が大きい。シニアクラブの活動も自治会活動と同様に市のサポートを受けられるような取り組みをしてほしい。 ● シニアクラブの活動を知らない人もいるため、広報紙に活動内容を定期的に掲載するなど、市としてシニアクラブの活動を周知し、市民に知ってもらえるようにしてほしい。 ● メンバーの高齢化に伴い、シニアクラブの活動（市内の広域的な大会やイベント）に参加する際に移動手段がないことが参加できない理由になっている。その日程に合わせた移動手段を確保する手立てがあるとよい。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	-
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	-
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 新規メンバーの確保、会長役職の担い手不足。 ● 会長の事務業務の負担増加。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	● シニアクラブの魅力を高める。 ● シニアクラブの活動を広く知ってもらう。 ● シニアクラブの活動が行いやすい環境面への支援。（公園整備、移動手段の確保、施設利用費の減免など） ● シニアクラブの活動に対する会員の負担軽減。
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● コロナ禍前は自治会などの他団体と一緒に活動していたが、現在は関わりが少なくなっているため、復活させたい。 ● フレイル予防事業など、市の事業と一緒に取り組められると良い。
8. その他	-

05.健康・医療・福祉—ラルジュ那加（株式会社ラポール）

項目	ヒアリング情報
日時	2月5日（月）13：30～14：30
企業・団体名	ラルジュ那加（株式会社ラポール）
活動内容	放課後等デイサービス事業所
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 昔は病名がなく、診断が出なかったような疾患が増えている（起立性調節障害など） ● 学習障害（LD）の児童も増えている。 ● 学習でつまずくことをきっかけにいじめなどが起こり、その結果、不登校になる子どもが多い。 ● 不登校児については、放課後等デイサービスでも受け入れてもらえないケースがある。（デイサービスにも定員があるため、急遽休む可能性が高い児童より、定期的に通うことができる児童を優先する傾向がある） ● 保護者の放課後等デイサービスへの理解度が低い。障がいのない兄弟まで預けたいといった要望を受けることもある。 ● 相談支援事業所の数が足りておらず、相談を受ける先が限られている。 ● 就学前・学齢期・義務教育期間終了後で、支援する制度、団体、部署が分かれており、支援の切れ目がある。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」（岐阜市）のような、0歳～20歳までを一貫して支援できる体制づくりを検討して欲しい。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 切れ目のない支援ができるような支援体制づくり。 ● 放課後等デイサービスなどの障がい児福祉に対する市民の理解向上。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● ニーズが多いため、同じ系列の「ラルジュ蘇原」において、受け入れ定員を10人から20人に拡大する予定。 ● 令和5年4月より、就学前の就園児についても受け入れを開始した。（現在、年中クラスの児童が1名利用）
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 機関相談支援センターとの接点はあるが、他の分野との接点がなく、連携ができていない。 ● 利用者（児童・生徒）の学校卒業後について、就労等、その先どう過ごしているのか気がかりである。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	● 職員に対して月1回の事業所での研修や、職員による自主的な研修などにも取り組んでいるが、例えば、母子支援や教育（不登校児支援）等、関連する分野の部署や支援機関の人に、各分野の取り組みや考え方を教えてもらう勉強会や、交流できる機会を作ってもらえるとありがたい。 ● 就職に関して、障がい者を積極的に雇用している企業など、障がい支援に協力的な企業との意見交換や情報交換の機会をつくってもらえるとありがたい。
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 母子支援や教育などの様々な分野の部署や支援機関、障がいに理解のある民間企業との情報交換、関係づくり。
8. その他	● ラルジュ那加の定員は10人/日、契約者数は23人、毎月240人程度（ほぼ定員）の利用がある。 ● 常勤職員は12名で、うち元教職員が8名程度。 ● 隣接する東海学院大学との連携ができており、実習生を受入れているほか、アルバイトに来る学生も多い。

06.防災・防犯―各務原防災推進ネットワーク

項目	ヒアリング情報
日時	2月8日(木) 10:00~11:30
企業・団体名	各務原防災推進ネットワーク
活動内容	防災活動
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 災害時の個人情報の取り扱いができない。(災害時のみ用途を限定して、自治会関係者や民生委員に対しては公開できるよう整備してほしい。) ● 自治会主導の防災体制となっているが、自治会役員が1年で交代するため、学習や総括がなく、ノウハウの蓄積ができない。 ● 災害時は物流が止まる。木曽川、長良川に囲まれ、橋の通行がなくなり、国道21号が主な搬路となるため、物資の確保が心配。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 備蓄品の不統一を認めるべき。適材適所に品目と数量を整備することで、地域の特性に合う防災対策ができる。八木山地区や尾崎地区などの丘陵地においては、水が枯渇しやすいため、より多くの水槽やポリタンクを整備することが可能となる。 ● 自治会と調整して、地域に需要のある備蓄品を決めてもよいのでは。 ● 地域の防災活動の継続性を図るには、自治会下部組織に防災会を設立する方法がよいと考えるため、まちづくり協議会や地区社会福祉協議会と同等の位置づけで設立し、設立奨励に対する助成金制度があるとよい。 ● 自治会が予算を持てるようになるため、自治会規約の改定を行い、自治会の下部組織の防災会とする。 ● 公民館などは自主避難所になる可能性が高く、休憩空間やプライバシー確保のため、防災の観点から避難所としての利用するための改修や、避難所とする手続きを簡単にしてほしい。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 女性割合が多いため、避難所における女性の活躍は必要不可欠であると考え。防災は3K(気づく、考える、行動する)のイメージがあるため、料理教室などから避難所等での活動に繋げられるようイメージチェンジしていけるとよい。 ● 高校生向けの防災体験を開催してほしい。賞味期限間近になった備蓄米を高校生に配布するなど、啓蒙啓発を行い意識付けを行うだけでも、いざという時に役立つと考える。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● T(トイレ) K(食事) B(居住スペース)の確保が重要であり、災害の実体験者などとの意見交換を通して備えておく。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 東日本大震災の後に発足し、会員の高齢化が進んでいる。平時は啓発活動を行っており、災害時にはボランティアセンターの開設や在宅避難者や指定避難所の運営支援を行うことを期待されているが、高齢化によりどこまでできるか不明である。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 課題把握と共有が重要であることから、交流による意見交換によって災害時の適切な判断につながると考えるため、様々な団体と情報共有したい。
8. その他	● 学校で防災に関わる発表会などを行ったら、市から感謝状を発行して、学校として取り組んだ実績作りに寄与してほしい。 ● 大学生に積極的に防災をアピールするイベントなどがあるとよい。

06.防災・防犯—小網町長寿会グリーンキャップ

項目	ヒアリング情報
日時	1月29日(月) 10:50~11:30
企業・団体名	小網町長寿会グリーンキャップ
活動内容	毎週月曜日午前8時からの定期パトロール。毎週1回以上の各自での個人パトロール。毎月の通信発行。
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 川島地区は人口も増えているので、事件などが起こらないか防犯面で心配している。 ● 川島大橋の工事の影響や大型の運輸倉庫が建設されたことで、交通の流れが大きく変わっている。今のところ大きな事故はないが心配はしている。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 市内の同分野の団体の活動状況を知る機会があるとよい。 ● 市は団体活動の推奨や予算確保はしてもらえるが、あとは結果のみを確認するだけで、活動の途中経過の聞き取りや関わりがない。特にシニア世代が中心の団体なので、バックアップしてもらえるとよい。 ● 各自が自由な時間に同じ目的をもって柔軟に活動する団体にも手当てがあるとよい。保険の強化なども行ってほしい。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	-
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 会員の時間を拘束して活動することは考えていない。各自が自由な時間に「小網町の防犯」という同じ目的をもって柔軟に活動する団体でありたい。 ● シニア世代が中心の団体であるため、今後会員の入れ替わりもあると思うが、活動は継続させていきたい。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 現在35名の会員がいるが、今後新たな会員の確保ができるか不安である。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● いずれは子ども会や青少年育成会とも連携したい。子どもの安全をシニア世代が見守り、子どもがシニア世代を元気づける。
8. その他	-

07.都市基盤整備―耀く大野町まちづくり委員会

項目	ヒアリング情報
日時	2月8日(木) 15:00~16:30
企業・団体名	耀く大野町まちづくり委員会
活動内容	大野町を中心としたまちづくり関連事業
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 少子高齢化 (農業離れ、高齢者の孤立、空き家の増加) ● まちのスプロール化 (土地利用の阻害や浪費、インフラ整備・維持管理負担の増加、生活環境の悪化) ● 住民のまちづくりに対する関心の低さ (自治会存続の危機、担い手不足、自主防災組織の未発達)
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 「造る」から「活かす」への転換。 ● 民間の力を積極的に活用する。 ● 進出企業のために新たな工業団地を市が準備することも重要であるが、金属団地のような既存企業の成長も必要である。 ● 注文通りに作ったものを納めるだけでは、買い手に買い叩かれ、企業としての成長は難しい。新たな付加価値を生み出すことが、企業の成長につながると考える。 ● 生産活動が活発な“稼ぐ”地域ができれば、安心して働ける環境ができ、定住にもつながる。「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」を良いものに変える好循環が生まれる。 ● 行政の役割は、きっかけや仕組み作りを行うことであり、企業が成長するためには、企業自身の頑張りが重要である。 ● 大規模商業施設、物流企業、そして金属団地やインターチェンジ周辺の産業拠点、これらが連携することが安全・安心なまちづくりにつながると考える。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	-
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	-
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	-
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	-
8. その他	-

07.都市基盤整備—岐阜乗合自動車株式会社

項目	ヒアリング情報
日時	2月20日(火) 10:00~11:00
企業・団体名	岐阜乗合自動車株式会社
活動内容	乗合バス事業、貸切バス事業、旅行事業
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 運転手の確保が必要。運転手不足を解消するために、外国人の運転手を増やしたいが、免許取得のハードルが高く困難。 ● 団塊世代の退職、魅力低下による新規職員の減少、働き方改革に伴う対応等。 ● 自動運転の環境整備について、リモコンによる運転は実用化されているが、現時点では1台につき1人の操作者が必要であり、運転手不足の解消には届かない。路上駐車している車両は手動で避ける必要があるなど、さらなる技術開発が必要。 ● 利用者が少ない路線は、廃止や減便の対象となる。さらなるバス利用者の確保が必要。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 利用者の確保に向けて、学生の利用者を増加させる施策があるとよい。定期券の学割は鉄道に比べると小規模であるため、市による学生の定期券に対する補助があるとよい。 ● 笠松駅～河川環境楽園を繋ぐ路線はあるが、河川環境楽園から空宙博等の他の観光拠点をバスで繋ぐような連携ができるとよい。 ● バスに限らずレンタサイクルやレンタルキックボード等の多彩な移動手段が選択できるようになるとよい。 ● 駅までの移動手段の利便性が上がれば、例えば各務原市内から名古屋市等に通勤する人が増え、人口減少防止の1つの策となるのではと考える。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	-
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	-
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	-
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	-
8. その他	-

08.産業・交流—各務原市農業委員会

項目	ヒアリング情報
日時	1月22日(月) 10:00~11:00
企業・団体名	各務原市農業委員会
活動内容	農地の売買、貸借の許可、転用への意見具申、遊休農地の調査指導など農地に関する事務
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 担い手の高齢化により、若い新規の農業の担い手が出てこない。現在の小規模な農地では採算が合わないことが原因として考えられる。 ● 農業ができる土地を預けたい人はたくさんいるが、受け手がいないことにより、耕作放棄地が増加している。 ● 農業の収益性の改善のためには、農産物を育てる圃場（ほじょう）の区画の拡大による効率化が必要。 ● 現状の小規模の農地を集めるだけでなく、畔（あぜ）を取りはらって、一枚の大きな農地とするなど、集積後の再整備を行う必要がある。 ● 農地の集約・集積が進まないことには、担い手不足の解消、スマート農業による効率化も進まない。 ● 各務原市の小規模農地では、費用対効果の問題から導入が進んでおらず、イチゴ栽培における室温管理センサーの活用等、小規模な活用に留まっている。農地が大規模となれば、トラクターの自動化等で収益性の改善が可能と考えられるため、まずは農地の集約・集積が先決。 ● 農地は、洪水防止、水源の涵養（かんよう）、景観等の多面的機能を有しているため、農地が減少しないように守っていかなければならない。多面的機能支払交付金制度など、農地保全活動に対する補助はあるものの、活用できているのは一部の地域のみであるため、全体に広げていく必要がある。 ● 農地を維持するという意識を持つ農地の所有者はそれほど多くない。地域で農地を守ると意識の醸成が必要。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 農振農用地の上位互換のような農地から転用できないエリアを設けられれば、優良な農地の保護につながる。 ● 農地の中にも、平らで活用しやすいエリアと、斜面等で活用しにくいエリアがある。 ● 農地の転用が異常なスピードで進んでいるという現状があるため、必要以上に転用できないような取り組みも必要ではないか。 ● 水田について、農地の集約を行っただけでは、区画間に畔（あぜ）等があることから、なかなか生産性が上がらないため、集約後の再整備が必要。 ● 農地の面積はできるだけ維持しつつ集約を進める必要がある。 ● 鵜沼ではにんじんという特産品ができたため、他の農作物についても、市の推奨、関係者の協力の上、新たな各務原ブランドを作ることにより、付加価値をつけていくと良い。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 農地は市民にとっての財産であるため、維持に対して取り組んでほしい。それが、景観、水源の涵養、防災といった多面的機能の維持につながる。農業を維持していくための取り組みを推進してほしい。 ● 工業、商業が優先されがちだが、農業に関する取組も重要であることを理解してほしい。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 地域の農地を守るために、多面的機能支払交付金制度の活用団体を市内全域まで広げたい。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 地域の理解や協力が不足している。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	● 多面的機能支払交付金制度の周知や、地域の理解を得るためのサポートをしてほしい。 ● それにより地域の農地は地域で守っていくという動きを作っていきたい。

7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 農地所有者に対して、農地を守っていくことの重要性について理解してもらうことに協力してほしい。 ● 農地の維持には、地域の協力や理解が必要であり、地域を巻き込んだ活動をしていく必要があることから、最近では地域の子供たちを集めて、芋掘りや餅つきを行っている。 ● 用水路の泥上げを春と秋に行っているが、子の活動は地域全体の景観を守る活動でもあるため、自治会からも参加者を出してもらっている。そういった、互いに支え合う関係性を作っていくことが重要。
8. その他	-

08.産業・交流—各務原市観光協会

項目	ヒアリング情報
日時	1月30日(火) 13:30~14:30
企業・団体名	各務原市観光協会
活動内容	各種観光施設、観光イベント等の紹介宣伝 PR など
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 市の西側にあるイオンモールから東の鵜沼方面への回遊、犬山市周辺の市の東側から西の那加方面への回遊が少ない。 ● 都会と田舎が共存しており、非常に住みやすいまちだと感じているが、市民や市外の方々にそれがどれだけ伝わっているのかが課題。 ● 情報発信が弱いと感じる。SNS や動画配信など様々な媒体を活用して、より幅広く魅力を発信していく必要がある。 ● 全国的には市の知名度は低い。市内の観光資源は市民や周辺市町村の住民のためのものが多く、遠くから人を呼ぶほどのものが無い。飛騨高山のような観光地と同じように観光客に来てもらうことは難しいため、各務原市の実情に応じた取り組みをしていくことが必要。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 東京都では「ボタニカルシティ」をキャッチフレーズに、都会の中に緑を整備して誘客を行っている事例がある。各務原市も多くの公園が整備されていることから、自然を生かしたまちづくりをしていくのがよいのではないかと。また、東京都の事例のように、市のキャッチフレーズをつくり、市のイメージを定着させるのも有効ではないかと。 ● 木曽川周辺エリアを市の東の観光拠点として、更なる整備や有効活用、近隣自治体と連携した取組などに取り組むことで、さらなる誘客につなげることが可能なのではないかと。 ● 市内の3つの博物館（空宙博、くすり博物館、アクアト）の連携も現状はない。市内施設間の連携に取り組む必要があるのではないかと。 ● 道の駅、野菜の直売所は、関市や岐南町でも多くの人が集まっている。同様の施設を整備することで周辺地域から人を呼び込むことができるのではないかと。 ● 自治体などが開発する「ご当地 RPG」と呼ばれる、地方自治体を舞台に、特産品、観光名所等が登場するロールプレイングゲームが各地で登場している。市内にもゲーム会社があるため、連携して各務原市のゲームを作り PR するということではないかと。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 自然が豊かなまちをアピールするためのさらなる公園の整備や、各務原市の特色である製造業などの産業を交えた観光に関する取り組みなど、まちの魅力を伝え、誘客、さらには移住定住へとつなげていくための施策が必要。 ● 市内観光地や大規模商業施設との回遊が起きるような取り組みができるとよい。 ● 市民に誇りに思ってもらえるまちづくりが必要。そうすることで、市民自らが市の魅力を外に発信し、それが広がることによって、自然と人が集まってくるまちになる。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 会員同士、その他団体等との横のつながりを作って、お互いの良さをうまく引き出しながら、相乗効果を生み出すような取り組みを行っていききたい。 ● 移住定住につながるための入り口としての観光に取り組んでいきたい。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 会員の高齢化、若者の不在によるプレーヤー不足。 ● 多忙な会員が多く、時間的な制約がある。それもあり、なかなかいいアイデアが出てこない。 ● 観光協会としての戦略や計画がないこと。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	● 観光への取り組みを行っているのが、観光交流課のみに留まってしまっていると感じている。産業分野や教育委員会等とも連携していけるともう少し良い取り組みができるのではないかと。
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 木曽川流域での連携がより強まるとよい。 ● 市内の他の博物館等（空宙博、アクアトぎふ）との連携がより強化できるとよい。
8. その他	-

08.産業・交流—空宙博ボランティア

項目	ヒアリング情報
日時	2月3日(土) 9:00~10:00
企業・団体名	空宙博ボランティア
活動内容	展示物の案内・監視業務支援、展示物のメンテナンス・学芸業務の支援など
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 交通の便が悪い。駅からは遠く、バスもそれほど便利とは言えない。 ● PR が不足している。東京で開催された航空に関する展覧会に行った際、会場にいる人は誰も空宙博のことを知らなかった。飛行機が好きな人にすら、空宙博のことが知られていない。 ● 雑誌への情報掲載に取り組むべき。他の博物館では、イベント開催等に関する情報は専門誌に必ず掲載をされている。以前掲載に取り組んでいた時期はあったが、最近ではなされていない。(若者に対する SNS 等での PR はもちろん大事だが、上の年齢層に対しては、まだ雑誌での PR が必要。その分野が好きな人は雑誌を読むことが多く、情報に触れるきっかけとして雑誌は有効。その後、インターネットで詳細を知るという流れだと思う。実際、自分たちも、他の博物館の情報について雑誌を見て知り、遠方の博物館まで足を運ぶこともある。) ● 著名な先生による講演など、良いイベントを開催していると思うが、告知が弱いことで、イベントが終わってから、知っていれば行きたかったのという話を聞くこともよくある。県の発表のタイミングとの兼ね合いも原因としてあるのかもしれない。 ● 現状では、空宙博が他の博物館と連携していることが分かりづらい。そもそも連携自体が少ない。空宙博から他の博物館へ貸し出せるものが少ないため、展示品を用いた連携となると難しいのではないかな。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● シャトルバスの運行によるアクセスの改善。他の市内観光地との循環バスがあれば、施設間で観光客が往来でき、相乗効果があるはず。ただし、利用者がどれだけいるのかという課題はある。 ● 犬山市との連携を強化する。犬山市には中華圏からの観光客が一定数おり、その観光客が空宙博に立ち寄ることも現状ある。より連携を強化し、犬山市から各務原市への流れを作ることができれば、空宙博のみならず市内観光地の活性化に繋がると思う。 ● 雑誌掲載による PR を強化する。また、インターネットのポータルサイトでの PR についても強化するなど、今まで以上に積極的な PR 活動に取り組む。 ● SNS で情報を発信する際に、情報の内容が誤っていることがある。博物館という性質上、情報の誤りは致命的であるため、正確な情報発信に努める必要がある。 ● 空宙博のウェブサイトが少し見づらく地味だと感じる。今後改善予定とも聞いているが、インターネットで情報収集を行う層に対しては、ウェブサイトの見やすさは重要。 ● 関ヶ原古戦場では、自立走行型ロボットによる案内の実証実験を行っていた。人を避けながら訪問客を展示物へ連れていき、展示物に関する説明をするというもの。空宙博でも導入できれば、観光地としての魅力を向上でき、外国語対応もできれば、外国人観光客の誘客にもつながる。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 良い取り組みはたくさん行っていると思うので、その取り組みについての PR に積極的に取り組んでほしい。 ● 以前新聞やテレビに取り上げられた際には、かなり大きな反響があった。メディアに取り上げられるような取り組みをすることにより、市や施設の全国的な知名度を上げられるとよい。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 空宙博の信頼に応えられるようなボランティア集団となっていきたい。 ● 現在、空宙博とボランティアとの間の意思疎通が円滑にできていないと感じることがある。以前はもっと密にコミュニケーションが取れていたこともあったが、最近は希薄になってしまっていると感じることも多いため、改善し、より良い活動ができるようにしていきたい。

5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 後継者不足、高齢化、活動への参加者の減少。 ● ボランティアの管理は学芸員が行っているが、負担が大きいと感じる。ボランティアがボランティアの管理をするのも難しい。他の施設等のボランティアはどのように管理されているのか知りたい。 ● 平日に活動できる人が少なく、平日のサービスが手薄となっている。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	● 学芸員の方のボランティアの管理に係る負担が大きいため、ボランティアの管理について支援が欲しい。 ● ボランティアをするために自身で交通費を負担して来ている方もいるので、バスの乗車補助があるとよい。また、過去にはボランティアに昼食が出ていたこともあるが今はない。 ● ボランティアの中には、知識はあるものの接客を苦手としている方もいる。市でボランティア向けの接遇講座をやってほしい。
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 市内の他の博物館との連携ができればよい。歴史民俗史料館との協働は良いのではないかと感じている。
8. その他	● 現在はオリエンテーションルームとなっているが、リニューアル前は修復工房があり、展示品等を修復する様子を見学することができた。体験工房などという形で復活してはどうか。 ● 市民ギャラリーを設けて、ミニ展示会などを開催できればいいのでは。市内には模型クラブもあり、展示したい団体はあると思う。

09.行財政—株式会社リトルクリエイティブセンター

項目	ヒアリング情報
日時	2月12日(月) 12:00~13:00
企業・団体名	株式会社リトルクリエイティブセンター
活動内容	広告・デザイン制作、岐阜県 PR ショップや市内の空き家を活用した飲食店の経営
ヒアリング項目	課題・要望・提案
1. 関連分野において感じる課題を教えてください。	● 各務原市は良いまちで暮らしやすく、不満はないが、航空自衛隊基地があるという特徴のみで、その他の特徴がない。 ● 岡崎市や岐阜市、一宮市などのような、あのまちに行ってみたいという特色がない。 ● 工業は強いが、商業という面では弱い。 ● 商店街の活性化に向けて、いかに支援していくかが難しい。 ● リトルクリエイティブセンターには県外から就職する人もいるが、近くに遊べる場所がないと聞いた。 ● 駅周辺に特徴的なエリアがない。 ● リトルクリエイティブセンターと広報課で実施しているシティプロモーションが難しい。移住定住や観光、商業へとつながっていくシティプロモーションの成果は見えづらい。
2. 関連分野において市が進めている施策の改善策、新たなアイデアがあれば教えてください。	● 商業を発展させていくとよい。商店街の元気がなく、どんどん家や駐車場に変わってしまっている。商業地であるため、住宅街になってしまうとその役割が果たせない。 ● ビジョンを明確にして、官民が連携して事業を進めていくべき。 ● 官民連携について、各務原市は進んでいると思っているし、周りの人からも進んでいると聞く。ここを醸成していけば市の強みとして生かせるのではないかな。 ● 市の広報課の担当者が人事異動で次々と変わってしまうので、継続性がない。市が進めたい方向性がわからないため、継続できる仕組みづくりをして欲しい。
3. 今後のまちづくりに期待することを教えてください。	● 移住者を増やしたいのであれば、魅力のある仕事が必要。まちが良いだけでは足りず、仕事を紹介するなどの取り組みが必要ではないかな。 ● 新しいことに寛容なまちというイメージがある。何もないということが強みかもしれない。商店街でも周りの人が応援してくれる。 ● 官民連携について、ポジションごとに取り組むべきことが明確になっているといい。
4. 今後の活動に向けた展望を教えてください。	● 岐阜県の知名度が低い。東京で岐阜を発信していくことで、各務原市の認知度を上げていく。 ● 東京だけでなく、東北や中国地方など、他の地方とのつながりを作っていくなどして、市、県を跨いだ取り組みをしていきたい。外の人と各務原市をつなげていきたい。 ● 株式会社 OUR FAVORITE CAPITAL としても、今後3年間はアクティブに取り組んでいく必要があると思っている。何も取り組まない方が意見はまとまりやすいが、少し強引さも必要に思う。
5. 団体、企業活動の悩み、課題を教えてください。	● 資金不足。
6. 悩み、課題解決のための必要な支援を教えてください。	-
7. 市や他団体との協働への希望、アイデアがあれば教えてください。	● 官民連携に力を入れていく。行政と民間がそれぞれ共有しあい、シナジー効果を生み出す。民間がまちの魅力を引き出していきたい。勝手に取り組むのではなく、行政と一緒に取り組み、発信していく。
8. その他	● リトルクリエイティブセンターのような会社をまちの中に増やしていくことがいいのでは。ゼブラ企業を増やしていく。 ● いいお店が町にあるとお客さん、人が集まり、まちの顔になる。